第１学年２組　道徳科学習指導案

１　主題名　こまって　いる　ともだちに　［Ｂ（１０）友情，信頼］

２　教材名　くりのみ（出典：学研　新みんなのどうとく１）

３　主題のねらい
　身近な友達と仲よく活動し，助け合うことの大切さに気付き，友達が困っているときには助け合おうとする心情を育てる。

４　主題設定の理由
　本学級の児童は，学級での生活にも慣れ，学習面や生活面で相手に自分の思いを伝えられるようになってきた。学習でのペアやグループ活動では，自分の伝えたいことを一生懸命に話したり，友達の話に耳を傾けて聞こうとしたりする姿が見られる。休み時間には，友達と一緒に外で楽しく遊んだり，給食当番や清掃活動では，力を合わせて活動したりすることができるようになってきている。友達が水をこぼしてしまったときは，それに気付いてさっと雑巾を持ってきて拭いたり，転んでけがをしてしまった友達に対して「大丈夫」と心配し，保健室に寄り添ったりする児童もおり，そのような姿を称賛し，学級全体に紹介し共有している。１学年という発達段階において，まだ自己中心性から十分に脱することができない時期でもあるので，相手の気持ちを考えず，自分の気持ちを押し通そうとしたり，自分がよければいいと自分中心に考えてしまったりすることで友達とうまくいかなくて困ってしまうこともある。
　本教材は，冬のある日，食べ物を探しに出かけたきつねが，たくさんどんぐりを見付け，一人で腹一杯食べて帰る途中，うさぎと出会い，何も見付からないと嘘をつく。うさぎはやっと見付けた二つしかないどんぐりのうち，一つをきつねに差し出したとき，うさぎの優しさに触れたきつねが涙を流すという内容である。うさぎの優しさに涙を流したきつねの心情について話し合うことを通して，助け合うことの大切さに気付き，相手のことを考えて，助け合おうとする心情を育てることができる教材である。
　本時では，場面絵を活用したり，役割演技を取り入れたりしながら，うさぎの友情に触れて涙を流したきつねの心情を共感的に考えることができるようにしていく。友達の考えを聞きながら多面的・多角的に考えさせることを通して，友達と助け合うことの大切さに気付かせていく。また，エピソード写真などを提示し，友達と一緒に活動して楽しかったことや，友達と助け合ってよかったことなど自分の経験を振り返りながら，友達と仲よく活動することのよさを実感し，困ったときに進んで助け合おうとする心情を育てたい。

５　単元の学習計画（**総時数７時間**）

時間	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力等
1	考える 対話する	学級活動「学級のめあてを話し合おう」 　どんな学級にしたいか，自分の意見を発表したり，友達の意見を一生懸命聞いたりしている。	・よりよい学級になるために，どうすればよいか考えることができる。
2 本 時	考える 対話する	道徳「くりのみ」 　登場人物の役割演技を通して，困っている友達に対する行動を多面的・多角的に考え，互いに助け合うことの大切さについて考えている。	・身近な友達と仲よく活動し，困っているときには互いに助け合うことについて思いを深めることができる。
3	考える 対話する	道徳「二わの小鳥」 　動作化を通して，相手の気持ちに寄り添って考えながら，友達の気持ちを考えて，行動することの大切さについて考えている。	・相手の気持ちを考えて，行動することの大切さに気付くことができる。
4	対話する 習得する	生活「いっしょにあそぼう」 　身近な自然物などを使い，自分たちで工夫して作ったおもちゃを用いて，友達と一緒に遊び方を工夫し，みんなで遊びを楽しんでいる。	・相互の思いを大切にしながら，友達と仲よく遊ぶことができる。
5 ～ 7	対話する 習得する	学級活動「お楽しみ会をしよう」 　友情関係を深めるために，相互の思いを大切にしながら計画を立てたり，準備をしたりしてお楽しみ会に向けて協力しながら活動している。	・学級全員が楽しむことができる内容を考え，友達と協力して活動することができる。

単元を通して育成したい児童の姿
　相手の気持ちに寄り添いながら，仲よく活動することのよさや楽しさ，助け合うことの大切さを考えることを通して，友達とよりよい関係をつくり，楽しく学校生活を送ろうとする姿

6　本時における道徳科の見方・考え方を働かせた学びの姿

役割演技などを行い，登場人物の心情について考えることを通して，困っている人を思いやることの大切さに気付き，相手のことを考えて，進んで助けることについて思いを深める姿

7　本時の研究の視点

【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

○　自分事として捉えるために，友達との関わりについて今までの自分を振り返る場を設定する。

○　役割演技を行い，きつねの心情に自分を重ねて考えることで感じたことを話し合わせる。

【学びの連続性につながる振り返り】

○　友達と一緒に活動して楽しかったことや，友達と助け合ってよかったことなど自分の経験を振り返りながら，これからの生活の中で友達が困っていたときにはどんなことができるかについて自分の言葉でまとめさせる。

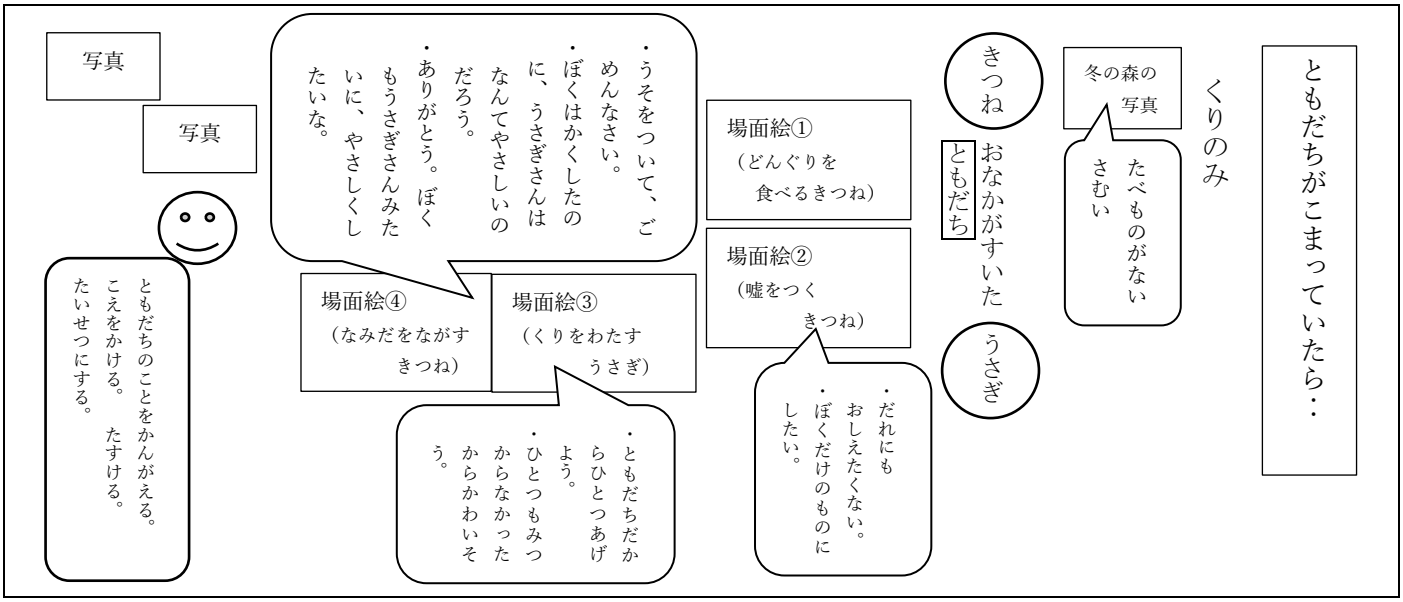
8　本時のねらい

役割演技などを行い，きつねの心情について共感的に考えることを通して，友達と助け合うことの大切さに気付き，友達が困っているときは進んで助け合おうとする心情を育てる。

9　学習過程

段階	学習内容・活動	時間	**○教師の支援**　※評価（方法）
課題設定	1　アンケートの結果や今までの経験を振り返り，学習課題を確認する。 ともだちがこまっていたら‥	5	**○　主題に対する関心を高め，学習に臨むことができるよう，事前に取ったアンケートの結果を提示する。**
課題解決	2　「くりのみ」を読んで考え，話し合う。 （1）「なんにもなくて，はらぺこです。」と言ったときのきつねは，どんな心情だったか考える。 ○　誰にも教えたくない。 ○　ぼくだけのものにしたい。 ○　やった，いっぱい食べられるぞ。 （2）きつねの目から涙がこぼれたとき，どんなことを思っていたのか役割演技を通して話し合う。 ○　嘘をついて，ごめんなさい。 ○　ぼくは隠したのに，うさぎさんはなんて優しいのだろう。 ○　自分のことしか考えていなかった。 ○　ありがとう。ぼくもうさぎさんみたいに，優しくしたいな。	23 (10) (13)	○　物語の背景を押さえることで，教材への関心を高めるとともに，登場するきつねとうさぎについて紹介し，二人は友達で，食べ物がなくて困っているということも押さえる。 ○　きつねの心情を考えながら聞くことを伝え，学習の見通しをもたせる。 ○　場面絵で教材を提示し，見付けたどんぐりを自分だけのものにしたいという心情や，嘘をついて独り占めしたいという心情に共感できることも確認する。 ○　ようやく見付けた栗の実をきつねにあげようとする，うさぎの心情も考えることで，困っている相手への優しい心や温かい心に気付かせていく。 **○　役割演技では，きつね役の児童の多様な意見を引き出せるように，教師がうさぎ役となり，児童への問い返しなどを行う。** ※　きつねの心情について，自分や友達の考えを比べながら多面的・多角的に捉え，考えを深めているか。（発言・観察）
振り返り	3　自分自身を見つめる。 （1）今までの経験について話し合う。 ○　（きつねさんのように，）自分が水をこぼしてしまったときに，みんなが雑巾で拭いて助けてくれた。 ○　（うさぎさんのように，）転んだ友達に声を掛けて助けたことがある。 （2）これから，友達が困っていたときはどうするとよいかをワークシートに書く。 4　教師の説話を聞く。	14 (7) (7) 3	**○　助け合うことのよさについて，経験を基に話ができるように，日常のエピソード写真などを提示して，子どもたち同士が助け合っていた場面を想起させる。** **○　友達と一緒に活動して楽しかったことや，友達と助け合ってよかったことなど自分の経験を振り返りながら，これからの生活の中で友達が困っていたときにはどんなことができるかについて自分の言葉でまとめさせる。** ※身近な友達と仲よく活動し，困っているときには互いに助け合うことについて思いを深めることができたか。（発表，ワークシート）

10　板書計画


ともだちがこまっていたら・・
くりのみ
冬の森の写真
たべものがないさむい
きつね
おなかがすいた
ともだち
うさぎ
場面絵①（どんぐりを食べるきつね）
場面絵②（嘘をつくきつね）
・だれにもおしえたくない。
・ぼくだけのものにしたい。
・うそをついて、ごめんなさい。
・ぼくはかくしたのに、うさぎさんはなんてやさしいのだろう。
・ありがとう。ぼくもうさぎさんみたいに、やさしくしたいな。
場面絵③（くりをわたすうさぎ）
場面絵④（なみだをながすきつね）
・ともだちだからひとつあげよう。
・ひとつもみつからなかったからかわいそう。
写真
写真
ともだちのことをかんがえる。
こえをかける。
たすける。
たいせつにする。